

「東海地域生物系先端技術研究会」（仮称）設置趣意書

東海地域の農林水産業は、温暖な気候と大消費地域を控えていると言う特色を生かしながら消費ニーズに応じた高品質の農林水産物を提供するという役割を果たしている。しかしながら、消費者のニーズは高度化、多様化の傾向を強めており、今後の国際化への進展や産地間競争の激化に対応して、より高度な技術の開発とその生産段階への普及が緊急の課題となっている。また、食品産業においては製品輸入の増大等に対応して、より付加価値の高い商品開発や技術革新による生産性の向上が急務になっている。さらに、これらの関連産業においても、技術革新、営業の多角化等の観点から、生物機能の積極的利活用のための研究開発等が求められている。

東海地域は、花き園芸、畜産を中心に高い技術水準を生かした集約的な農業生産が進められてきたほか、食品産業等においても醸造、加工を中心に多くの技術蓄積があり、これらを基礎として最近においても各分野で多くの成果を上げている。一方、最近普及されつつある生物系先端技術については実用化段階に入っている例もあるが、その多くは端緒が開かれた段階であり、その飛躍的發展のためには研究開発体制の裾野の一層の拡大が必要である。幸いにして、東海地域は大学において蓄積された技術・研究成果とその充実した研究施設があり、また、筑波研究学園都市を含む国公立試験研究機関においても、各種の分野で高度な研究の実績が多数存在している。さらに、企業においても経営の多角化コスト意識の中で培われた研究成果・技術等が豊富に賦存している。しかしながら、このような生物系先端技術に関する多様かつ膨大な情報については、これを適時適切に整理分析し、提供する体制が十分でない外、異業種、異分野間における交流についても必ずしも円滑に行われる体制がなく、このようなサービスを組織的に提供できる体制作りへの要請が強まりつつある。

このような状況をふまえ、大学や国、県等の試験研究機関等が有する最新の膨大な情報を収集、整理して、提供するとともに、会員相互の情報交換の場を提供する等の活動を行うため「東海地域生物系先端技術研究会」を設立し、生物系先端・先進技術の研究開発とその普及を促進し、もって東海地域の農林水産業及び食品産業並びにこれらの関連産業の発展に寄与することを期するものである。

平成 2 年 11 月 16 日

東海地域生物系先端技術研究会

設立発起人代表 吉田 昭